

ホームページサイト及び広報について

H29. 8. 30

1. 報告事項

- (1) 取組みの経緯
- (2) 協議の経過
- (3) サイトの方向性
- (4) サイトの内容
- (5) 広報

2. 今後の展開

3. ご質問・ご意見・ご感想

1. 報告事項

(1) 取組みの経緯

- ① 「平成27年度こどもの発達支援に関する基礎調査」において「保護者が必要な情報を得られていない」との結果に対する取組み
- ② 市民の情報源としての市ホームページ及び広報を活用「ならしの子育て応援サイト きらっ子ナビ」ではなく、市のホームページを活用し、新たにページを作る
- ③ 市民目線で捉えるとともに、保護者の視点から必要な情報を考えるために、本協議会の市民委員の方々（先ずは、当事者の保護者でもある5名の委員）と事務局で協議を開始
- ④ 『きらっといっぽの会』と命名

(2) 協議の経過 1

- ① 委員一人ひとり異なる子育ての苦労や思い等を共有
⇒ 悩みを抱える様々な保護者の状況を踏まえて、
サイトの目指す方向性や内容について協議した。
- ② 悩みを抱え、どうしたら良いか迷い困っている保護者
⇒ 悩みに関する情報(対応の仕方等)に触れると、
悩んでいるのは自分だけではないと思える。
⇒「相談してみようかな。」「ちょっとやってみようかな。」
- ③ インターネット上では、様々な情報が得られる
⇒具体的な内容(応援メッセージ等)や独自の情報を
習志野市として市民に伝える。

(2) 協議の経過 2

- ④ 子育てや療育等についての考えや価値観は多様
⇒互いに認め合うことが大切である。
- ⑤ イラストや漫画(4コマ漫画)等、目を引く内容
⇒読み手がホッとできる内容にする。
- ⑥ 「こんなことあるよね。」と共有できる情報を発信する。
- ⑦ 先輩保護者等の体験談の掲載
⇒安心につながる。

(3) サイトの方向性

- ① 発達支援を中心に、子どもの育ちや子育てに関する情報の提供及び発信
発達障がいに関する情報から取り上げていく。
- ② 発達支援に関する手立て等は、すべての子育てに役立つ情報である。
- ③ 発達障がいのある方の情報については、多くの市民に関係することである。
- ④ みんなが共に育ち合うという視点、共に理解し合うという視点を大切にする。

(4) サイトの内容



くらし・手続き 健康・福祉 子育て・教育 施設一覧 産業・事業者向け 市政情報

育児・子育て



習志野市の子育てに関する行政サービス情報を発信するWebサイト「きらっ子ナビ」を公開しています。

妊娠・出産・子育てに関する情報をわかりやすく掲載！スマートフォンでも閲覧できます。

平成29年9月、習志野市のホームページ内に新たに「こどものそだちを おうえんします」のページを作成いたしました。

発達支援という視点を含めた子どもの育ちを支えるための情報を中心として、子育てを応援するもうひとつの場所として公開します。

私の

子育てと子育て

地域
みんなの

～一人ひとり違う、それぞれの育ち～
～一人ひとりの歩みに寄り添う皆の思い～

あなたの



どうすればいいの？

乳児期

「抱っこされるの嫌い？」



幼児期

「言うこと聞いてくれない」



学齢期

「すぐ忘れる、忘れ物が多い」



思春期 以降

「身だしなみに気を配れない」



(仮)体験談

関連情報

関連サイトリンク

乳児期 こんなこと あるある！！

場面 抱っこされるの嫌い？

(ここにイラスト又はマンガ)

泣いた時、出かける時など抱っこすると、身体をそっくり返らせたり、抱っこしてもしっかりとしがみついてくる感じがしません。抱っこをせがむということが、そもそも少ない気がします。そう言えば、顔や手を触ったりするとむずかかったりすることもあります。抱っこされたり触られたりすることが嫌なのか、それとも私のことが嫌いなのかって思ったりしてしまいます。



対応

赤ちゃんは、あやされたり授乳やおむつ替えなどのお世話を繰り返される中で、徐々に安心感を得て喜ぶようになります。抱かれると安心して泣き止む情景はイメージされると思います。それなのに、、、。このような場合に、一つ考えられることは、触れ合うことが苦痛に感じている(触覚が敏感すぎる)可能性です。一方で、人への関心の育ちにくさが関係していることも考えられます。対応としては、①くすぐりごっこで、コミュニケーションをとりながら、触れる機会をつくる②触るおもちゃをいろいろな材質の物にして、感触の違いを徐々に経験する③軽く手のひらをタッピングしたり握手したりしながら触られている感触を経験する④そっと触られることが嫌な場合は、強く圧迫するように触れたり、ぎゅっと握ったりしてみます⑤触れる部分が見えるようにして、声をかけながら触る等が考えられます。触覚以外の感覚(聴覚、視覚等)も敏感すぎる(過敏)場合があります。人への関心を育てることも考慮して、ふれあい遊びを行ってみてください。

幼児期 こんなこと、あるある！！



場面 言うこと聞いてくれない

買い物に一緒に行くと、「これ欲しい」「買って、買って」と言い続けます。「後でね」「今日は買わないよ」など言い聞かせても、まったく言うことを聞いてくれません。

大きな声で泣きわめいたりするので、恥ずかしくて、つい買ってしまふことが多くなったりして、、、こっちが泣きたくなってしまいます。

対応

私たち親子だけがみんなから見られていて、こんな時どうしようもない気持ちになってしまいますよね。親としても「ちゃんと言い聞かせているのに」って思いますよね。

「あれ欲しい」など思った瞬間、すぐ行動してしまい、我慢をしたり自分の気持ちをコントロールしたりする力が人より弱い場合や耳で聞き取ることが苦手な場合に言われていることが分からない、一方、聞き取れていても意味が理解できない場合等によって、好きなように行動してしまうことが考えられます。対応としては、①自分の思い通りに要求を通そうとしている時、しっかり向き合って、短くはっきりと我慢することを伝えます。どのような時も、終始一貫して要求はのまず、パニックになるようであれば静かな場所へ移動して、見守りながら無視をします。静かになったらその状態を受け止め、認める声かけをします。②ことば以外の絵やジェスチャーなどの見て理解できるもので伝えてみます③どんな時も怒鳴らず、すればよいことを具体的に伝えるといった対応等が考えられます。どれも簡単ではないようにも思えますが、一番大切なことは、日常の中で出来ていることややろうとしていることを認めたりほめたりしながら、親子の穏やかな関係を積み重ねていくことではないかと思います。好きな人の言うことを聞けるようになることが期待できます。

どんなに頑張ってみても上手くいかない場合もあります。成長のための時間が必要な場合もあり得ますので、諦めず、可能であれば相談をしてみてください。

幼児期 こんなこと、あるある！！

場面 呼んでも振り向いてくれない

こっちを見てほしくて、何度も名前を呼んでいるのに知らん振りで鼻歌を歌っています。「聴こえているのかなあ」と不安になりますが、好きな歌が聴こえると、小さな音でも気が付くので、聴こえないふりをしているのかと思ってしまいます。

何度呼んでも振り向かないと、つい、イライラしちゃって、声が大きく強い口調になってしまうことも、。。。



対応

生後 2 か月くらいから人の声を聞き分けてじっと聞く姿が見られます。その後、母親の声を他の音と聞き分けられるようになり、名前を呼ぶと反応できるようになっていきます。一方で、声に対する反応が弱いお子さんもいます。①音が聞こえにくい②人や自分の周囲への関心、興味が弱い③何かに夢中になると他の情報を受け止めることが難しいといった場合が考えられます。



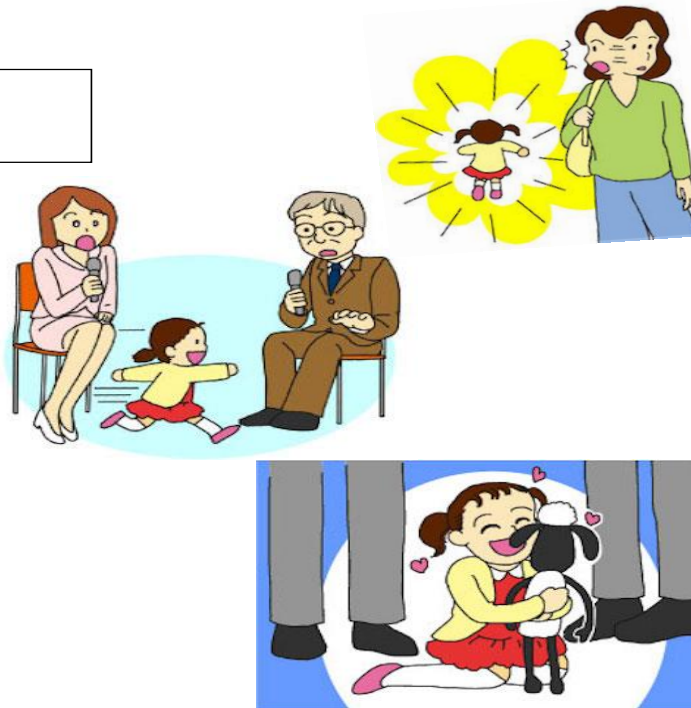
対応としては、人への関心が育つような関わりをしながら、近くから目を見て呼びかけたり、呼びかけと一緒に肩に手を置いたりしてみることを等が考えられます。もし嫌がるような状態があれば、何度も呼ぶことは控え、関心の方を育てていくことを今は優先してもよいかもしれません。

興味関心のある遊びを一緒にする中で、こっちを見る機会を積むことや見ると本人にとって良いことがある(応じてもらえる)ということが実感できるようになると、呼びかけへの反応が変化してくる可能性も考えられます。

幼児期 こんなこと、あるある！！

場面 人目もはばからず笑顔で走り続ける

お店で何かのイベントがあり、たくさんの方が集まって聞いているコーナーがありました。ちょっと目を離した際に、そっちの方に走って行ってしまいました。ステージにあがってしまい、ちょっと大騒ぎ。実は、そのステージには、大好きな羊のショーが置かれていました。小さなものだったので、よく見つけたなと感心しつつも、恥ずかしいやら本当に疲れました。



対応

何か頭の中に思い浮かんでもすぐに行動したり話したりしないようにできるのは、周囲の状況を考えてコントロールすることができるからです。その力が何らかの原因で弱い場合、即、行動に移してしまうことがあります。

対応としては、①何かをしたくなったら、手を挙げて「～するよ」と知らせるようになれると、行動に間をおくことができ、止めたり望ましい行動を知らせたりすることができます。②何かしたくなったら、「1、2、3、、、」と数を数えたり、今からしたいことを言葉にしたりすることで、衝動性をコントロールすることにつながられることもあります。①、②ともに、日常の安心できる場と人との楽しい経験を通して取り組めるといいですね。

学齡期 こんなこと あるある！！

場面

すぐ忘れる、忘れ物が多い

学校で必要な持ち物を忘れたり、宿題を忘れたりすることがよくあります。学校で配られた手紙を渡し忘れることもよくあります。時に、友だちと遊ぶ約束をしたことを忘れて、友だちに怒られることもあります。本人に悪気はないように思えるのですが、何度もあるので、イライラしてしまいます。



応援

あまりにも何度も繰り返されると、注意や叱責がどうしても増えてしまいがちになります。一方で、本人なりに気を付けていても上手くいかないことが多く、自信をなくしがちになります。このように繰り返される背景には、①聞いて覚えるのが苦手②不注意③聞いたことを思い出せないといった状態がある可能性が考えられます。対応としては、メモを取る、確認をする（持ち物チェックシート等を利用）、先生にも協力依頼するなどが考えられます。家庭では、はじめは一緒に行ったり、チェックしてあげたりすることが必要です。その後少しずつ、自分で準備する・確認する等、自分で考える練習もしていきます。成功体験が積み重なっていくことで、少しずつ自分で思い出して気を付けることができるようになっていきます。しかしながら、苦手さがある場合は、なかなか身につけることが難しいこともあり得ますので、一生懸命取り組んでいることを認めたり、励ましたりしながら自信をなくさせないようにする対応が望まれます。注意や叱責を控えるには、大人の我慢・忍耐が必要になってきますが、お互いの笑顔を増やすためのひとつの方法と考えます。

思春期 こんなこと あるある！！

場面

身だしなみに気を配れない

学校に行く準備や学校の勉強はしっかりできているようなのですが、顔を洗ったり髪の毛を気にしたりするようなことが一切ありません。それなのに最近、女の子のことをすごく気にするような態度が見られるようになりました。このままじゃ嫌われるだけのような気もして、でも言っても何も気を付けるようなことはありません。



応援

鏡を見ている様子はあるでしょうか。思春期だからと言って、女子だけでなく男子もみんなが鏡を見て、おしゃれに気を遣うということはないかもしれませんが、極端に身だしなみに気を配らないという場合、自己認知(自分をできるだけ客観的に理解すること)の弱さが背景にある可能性が一つ考えられます。自分が特別困ることではなければ、言われても気を付けようとは思えないかもしれません。対応としては、①繰り返し鏡やビデオ録画を見る機会を通して、格好やふるまい方について振り返る②周りを見てどう思うか、不快に思われた場合にそれでよいのかどうかなど一緒に考える③言って聞かせるのではなく、見て、分かるように伝えるなどが考えられます。女の子のことを意識するようになったことは成長の証ですので、これを新たな動機づけとして、学習する機会となることが望めます。普段は話が通じるかもしれませんが、もしかしたら聞くことよりも見て理解する方が得意かもしれませんので、見る・聞くともに考慮してあげるとよいと思います。

その他の「こんなこと あるある！！」

乳児期:「夜泣きで大変」、「放っておいても平気」、
「後追い、人見知りしない」、「まねをしない」等

幼児期:「要求の指さしはするけれど、こっちを見ない」、「相手の言ったことをそのまま言う」、「一方的に自分の言いたいことを話す」等

学齢期:「ひらがながうまく書けない」「黒板の字をノートに写せない」「友だちとの関わりが苦手」「思うようにいかないとすぐきれる」等

思春期以降:「自分は他の人とどこか違うと感じる」「グループ行動ができない」「友だちの話の輪に入れない」等

※上記すべての時期において、将来の就労を見据えた際に必要な考え方やスキルなどを踏まえた内容にする

その他

(仮)体験談

関連情報

- ・相談機関
- ・関連団体
- ・発達障がいに関わる情報等

関連サイトリンク

関係省庁等

- ・ [厚生労働省](#)
- ・ [文部科学省](#)
- ・ [内閣府\(障害者施策\)](#)

発達障害情報・支援センター

- ・ [発達障害者支援センター一覧](#)

独立行政法人

- ・ [独立行政法人国立精神・神経医療研究センター](#)
 - [災害時こころの情報支援センター](#)
- ・ [独立行政法人国立成育医療研究センター](#)
 - [子どもの心の診療ネットワーク事業](#)
- ・ [独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構](#)
- ・ [独立行政法人国立特別支援教育総合研究所](#)
 - [発達障害教育推進センター](#)
- ・ [独立行政法人日本学生支援機構](#)

『きらっといっぽの会』より

新しい命の誕生は、すべて等しく尊いものです。すべてのご家族にとって、喜びに満ちたものであることを心から願います。

しかしながら、誕生を迎えるまでの間も、その先においても、実際には予想できないことが起こったり、思い描いていたこととは違う状況と向き合わなければならなかったりすることがあります。それは、自分にはなかったとしても、友人など身近な人に起こることかもしれません。

また、子どもが育つ、子どもを育てる、そのどちらにも悩みはつきものです。お子さんとのお付き合いの中で、気にかかることがあったり、対応が上手くいかないことが続いたりすると、不安が大きくなって、ご自身を責めてしまったり、子どもにあたってしまうこともあるかもしれません。

そんな時、何らかの方法で解決できれば安心ですが、一人で抱えてしまい、苦しい思いをされることも少なからずあるのではないかと思います。誰かに相談するということにはどこか不安があって、なかなかできないことも十分に考えられます。

この場所で、すっきり悩みが解消できるということは難しいかもしれませんが、「自分だけじゃないんだ。」「ちょっとやってみようかな。」「相談してみようかな。」など、少し元気になれたり、前に進めたりするきっかけがくれる場になれたらと思います。

ここにいらしてくださった方が、子どもの育ちや子育てに幸せや希望を感じられるよう、また一人でも多くの方が、悩んでいる誰かの力になっていただけるよう、発達支援という視点を含めた子どもの育ちと子育てを応援する場所にできたらとの思いがあります。

発達支援の考え方や関わり方は、すべての子育てに役立つ内容も多く、また、誰かの力になって支えるためにも役に立つものです。未来を担う子どもたちのために、共に支え合い、育ち合えるまち習志野に向かって、多くのみなさんが集う場所にもなってもらえたらと願っています。

「ちょっと気になる」「育てにくい」といった悩みは、多くの方々が経験されることではありますが、保護者の育て方やしつけなどが原因ではなく、お子さんの発達に関する特徴・特性が関係している場合があります。このことは、見ても分かりにくいいため、「育て方の問題」などと周囲から誤解されてしまうことも多くあります。対応がなかなか上手くいかない場合には、年齢に応じた言動を求めるよりも、先ずはお子さんに合った方法やペースを考えていく方が適切な場合があります。

今回は、そのような発達支援という視点からの情報を中心に考えていきたいと思います。

このサイトに記載している事例、対応等につきましては、その一例です。多様な考え方があります。また、一人ひとりの状況、興味関心等の違いに応じて、対応方法は個々に調整していく必要がありますことをどうぞご理解下さい。

(5) 広報

- ① 広報を見る方への情報発信
方向性はサイトと同様である。
- ② 習志野市からの情報発信
内容は、ホームページの新たなページ作成の案内、
関係各課からの応援メッセージなど
- ③ 広報12月1日号を予定、
見開き半ページ(A4サイズ)

2. 今後の展開

- ① 必要な情報は、掲載できるよう検討していく
⇒当事者のニーズに応える
発達支援に関係する多様な情報（発達障がい以外の情報等）を考える
- ② オール習志野で対応していくことを市民に伝える
⇒関係部署や関係機関の情報も発信
- ③ 多くの市民の方々に見ていただく
⇒周囲の理解者を増やす